

# 雲南市特別栽培米、プレミアムつや姫栽培マニュアル (グリーンな栽培体系版)

## 1. 栽培目標

- ・土づくりを基本とし、健苗育成・適正防除・施肥・水管理等を徹底する。また、収量を第一とせず、品質（整粒歩合）・食味の向上に重点を置く。
- ・減農薬、減化学肥料栽培によるコメ作りを行い、環境負荷の低減並びに省力化を図る。
- ・「水位・水温センサー」を活用し水田をモニタリングすることで、水管理の適正化と省力化を図り、的確な作業実施により品質向上につなげる。
- ・「センサーカメラ」による生育状況の把握並びに記録データを活用し、各年の気候や生育状況に応じて、追肥、防除、刈取など適期作業に努める。

## 2. 土づくり

- ・稲わらの腐熟を促すため、完熟堆肥を施用するとともに、秋起こしを励行する。
- ・品質、食味向上、収量改善のため、土づくり肥料（推奨品目：田んぼの守 60 kg/10a）を施用し、稲体の健全化を図る。
- ・深耕は 15～18 cmを目安とする。
- ・前年作の収穫後の圃場確認を実施して、出来るだけ乾田状態になるよう整備する。

## 3. 育苗

- ・特別栽培米の種籾は、無消毒種子温湯消毒種子または、微生物農薬による消毒種子を用いる。
- ・健苗育成を行うため薄播き（乾籾 120g 程度）とする。
- ・種もみは無消毒種子を使用して、温湯消毒による病害防除をした種子を使用する。

## 4. 田植え

- ・1 株当たり 3～4 本植えとする。出穂期の高温・登熟障害対策として、出穂の目安を 8 月上旬～中旬におき、播種は 5 月 1 日以降、田植時期は 5 月下旬となるよう育苗を行う。

## 4. 施肥

- ・肥料は曆に基づき有機態窒素入り肥料を施用し、施肥量は化学肥料の窒素成分で 10 a 当たり 4.0 kg 以下（慣行栽培の 5 割以下）とする。
- ・穂肥は適期に適量を施用し、基準量を超過しないこと。
- ・一発肥料体系においては、プラスチック殻を排出しない肥料を使用すること。

## 5. 水管理

- ・過繁茂を防止し稲体の健全化を促すため、間断灌水や中干し等、基本管理を徹底する。ま

た、品質向上（整粒歩合）を図るため出穂後 30 日頃まで間断灌水を行い、早期の完全落水をしなない。

- ・水位水温センサーの導入により、水管理の省力化と適正化を図る。

## 6. 病虫害防除

- ・畦畔の草刈り等を徹底し、病虫害防除に努める。
- ・使用する農薬は、生態系や人体へ影響リスクを考慮し、一日摂取許容量（ADI）が高い成分が含まれるものを使用するように努める。
- ・農薬を使用する場合は、種子消毒、防除剤を含め、栽培暦に基づき薬剤を使用する。なお、指定薬剤以外の薬剤防除が必要な状況が生じた場合は、関係者が協議し、追加防除を行った圃場の米は慣行栽培米の扱いとする。

## 7. 刈り取り

- ・青味籾率 10～15%で刈取りを行う。
- ・適正な乾燥を行う（急激な乾燥は避けてゆっくりと実施す）。水分：14.0～15.0%に調整
- ・網目は 1. 9 mmの使用を厳守すること。